



地域の人生をほりおこす 聞き書きプロジェクト

2015～2016 作品集

●はじめに

東条川疏水は、加東市、小野市、三木市の農地に農業用水を供給するとともに、一部は加東市と小野市の水道水としても利用されるなど、この地域を支える大切な水です。

しかしながら、時代の変遷とともに、東条川疏水によってもたらされる水の恵みに対し、実感をもって感謝する世代は少なくなってきました。

このため、兵庫県では、地域全体でこの東条川疏水について学び、地域の財産として活かし、より良い形で次世代に引き継いでいきたいと考え、地域のみなさんや有識者の方々と話し合い、平成24年3月に「東条川疏水ネットワーク博物館構想」を策定しました。

この構想では、地域の大切な資源である東条川疏水を次世代に引き継ぐために①東条川疏水の名前を地域や地域外に定着させる②地域を担っていく次世代を育てる学習の場として活用する③既にある資源や活動を「ほりおこし・つなげ・むすびつける」ことにより取り組みの輪を広げることを3つの柱として、その具体化を進めています。

その取り組みの一つとして、東条川疏水や疏水にまつわる地域の歴史などを地域の方々からお聞きし、書き起こすことにより、この地域で生きた人々の人生そのもの通じて、あらためて地域のことを知り、見つめ直すきっかけとして「聞き書きプロジェクト」を実施しています。

語り手と聞き手の対話、そしてそこから書き起こされた文章が、それぞれの人生が刻まれたアーカイブとして次世代に引き継がれ、様々な場面で活用されることを期待します。

●本作品集について、またその取扱いについて

聞き手が語り手のお話を語り言葉のまま書き起こします。その際、順番等は読みやすいように聞き手にゆだねられますが、「語り手の人格を反映させること」、「語り手が話された主旨を尊重すること」の2点を基本原則として行っています。

その後、事務局および語り手ご本人により確認を行い、本作品集をとりまとめました。

なお、本聞き書き作品集は、「この地域で生きた語り手の人生」を「次世代が記録したもの」であり、歴史的事実との整合については、この聞き書き成果の活用場面ごとで、ご確認ください。

目 次

●聞き書き作品 2015

1. 近代建築モダニズムの系譜 4
語り手：内藤正克さん（小野市久保木町/（株）内藤設計相談役会長）
2. 酒米“山田錦”とともに 13
語り手：藤原 進さん（加東市松沢/東条山田錦振興会会長）

●聞き書き作品 2016

3. 雨乞い踊り“秋津西戸百石踊り”について 18
語り手：針木 功さん（加東市秋津/秋津西戸百石踊り保存会会長）
4. “ふれあい”と地域づくり 25
語り手：三村良三さん（加東市上福田/県民交流広場「三草ふれあい広場」事務局長）

●聞き書きプロジェクトに参加して 36

■参考：聞き書きプロジェクト参加者 40